

ユニコーン Unicorn 創刊号 H25.7.21

ユニコーン創刊号の聖なるいかり!

福島県で小児甲状腺がんが2年で28名発症(H23・H24)しているのに日本中で無視! 再検査の終了予定は、選挙のあと! 検査は1分といい加減だし、順番が全然まわってこない! ヨウ素の被ばくは吸い込み60%! しきい値なし! 福島以外も検査必要!



2012年8月 ベラルーシの大統領が福島の子供を10人招待。検査がなかなか受けられない子供たちが希望して甲状腺検査などをベラルーシで受けた

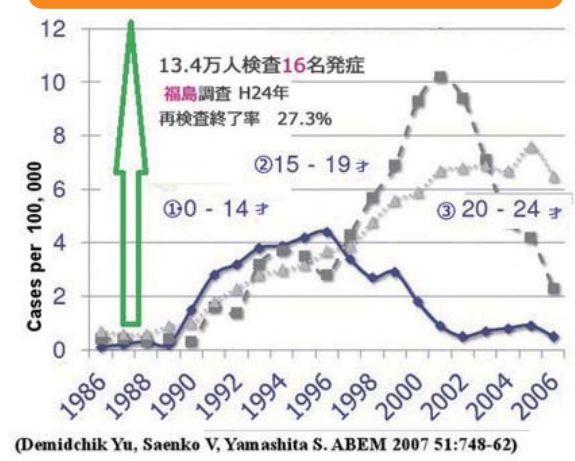


ベラルーシ甲状腺医療現場での日本の医師の研修事業

東京電力 フクイチ 福島第一原発事故 健康被害の早急な調査を求めます

小児甲状腺がんの異常発生 100万人に一人しかでない病気
ベラルーシの子供、10万人あたりの発症数 0~14歳のグループが、15歳~19歳のグループに、そして20歳以上のグループに成長とともに移動していく 山下俊一教授(長崎)による、アメリカでの発表の論文から

ベラルーシの小児甲状腺がんの増加 (発症年齢の移動①→③) と福島県民健康調査(H24年・一部)



▲福島県の甲状腺がん発症率の異常な高率



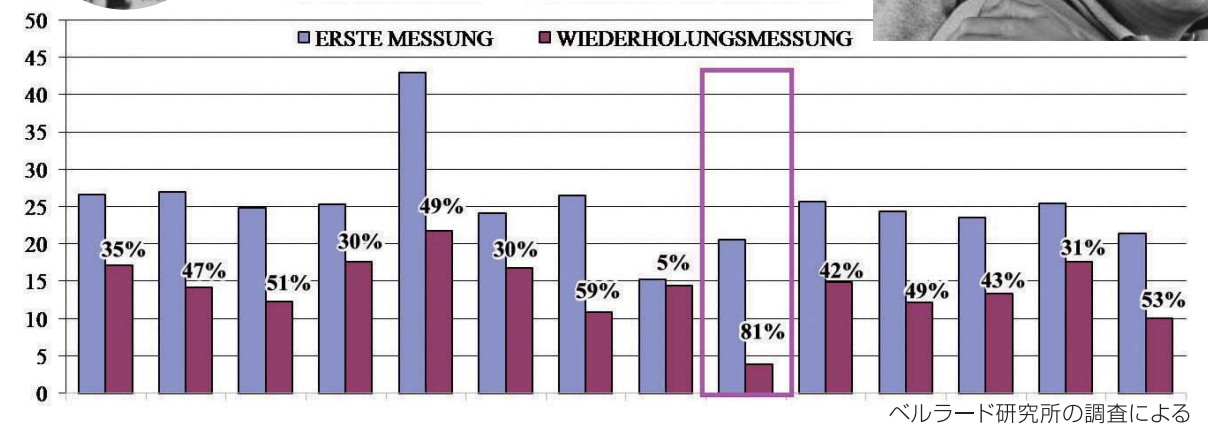
IAEAやWHOは、低線量被ばくを認めませんが、被害は子供から現れます。早急に対策が必要です。

ユニコーンの角は、万病を治す薬になるという。しかし、ユニコーンは聖女だけが好きで、角のために嘘をついたとわかったら 猛然と怒り狂うという伝説上の動物です。



保養・疎開・避難のすすめ

子供たちは、甲状腺機能障害。目の下にクマが入りやすいが、1か月の保養で元気になります。また、2010年に日本で保養した子供たちは81%のセシウムの排出率でした。汚染のない環境と食べ物子供たちにはとても大切です。病気になる前に。



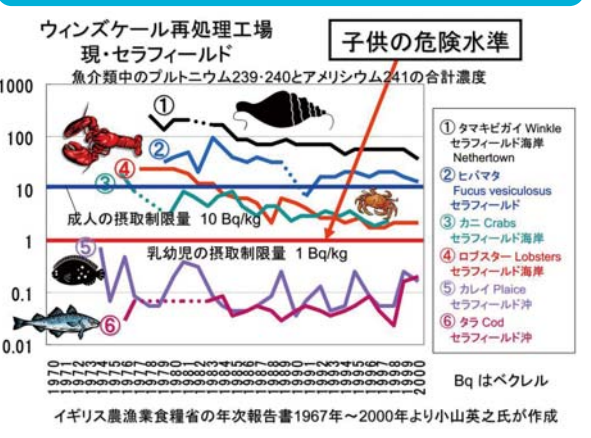
ベルラード研究所の調査による

汚染マップを見るとき注意

★大量の初期被曝が反映されていない。
事故初期は気体性の放射能が大量放出され、呼吸による内部被曝のリスク(危険性)が非常に高まります。3月15日、東京の台東区でも、わずか1日で1mSvに達しました(京大原子炉実験所)。しかし、甲状腺に集まるヨウ素131は半減期が8日と短く、測定マップに反映するのが困難です。

▲日本の放射性ヨウ素の拡散地図(「地球の子供新聞」より)

1970年代から依然として汚染が下らない魚介類の現状



▲イギリスのセラフィールド再処理工場、海に汚染が流されたが、魚類の数値の減少が見られない。魚は計測して食べてください。

これから、健康を守るためにすること

- 1 関東圏も含めて、予防のために 集団保養・疎開のシステムをつくること
- 2 健康診断を最低でも30年以上 続けていく 体制の構築(厚労省がすること)
- 3 強制移住は、国の責任で。

福島をはじめ関東の被災者・児童の医療検診・疎開などに 使用するための募金のご協力をお願い致します。

ユニコーン(福島原発健康被害児・者の会)

連絡先: ☎064-0809
札幌市中央区南9条西3丁目1-11-601
チェルノブイリへのかけはし
TEL(011) 511-3680
FAX(011) 252-7787

ゆうちょ銀行
「かけはし甲状腺プロジェクト」
(支店名)九〇八(キューゼロハチ) (普通)5104399